

第10回記念事業

『大同大学X棟(クロス棟)見学会』&『交流会』

報告書

【見学会報告】

日時：2024年5月24日(金) 14:00～16:30

会場：大同大学・X棟 X棟2階 講義室 X0215 [名古屋市南区滝春町 10-3]

主催：(一社)建築設備技術者協会中部支部設備女子会

後援：(順不同)

- ・(公社)空気調和・衛生工学会中部支部
- ・(一社)日本空調衛生工事業協会東海支部
- ・(一社)電気設備学会中部支部
- ・(一社)日本電設工業協会東海支部
- ・(一社)日本設備設計事務所協会連合会東海ブロック協議会
- ・(一社)日本建築学会東海支部

協力：大同学園大同大学、大同大学建築学部光田恵教授、(株)日建設計佐藤孝広様

協賛：(株)三重日立、TOTO(株)四日市営業所、光田恵教授

取材新聞社名：中部経済新聞社、建設通信新聞社、建通新聞社、建設工業新聞社（以上4紙、順不同）

参加者数：36名(女性30名、男性6名)

参加者所属企業名：日建設計、黒田設備設計、丸水設備、高砂熱学工業、大成建設、日比谷総合設備、藤原工業、大林組、空建築事務所、朝日機器エンジニアリング、総合設備コンサルタント、テクノ菱和、FREIHEIT、大冷工業、彩美、新日本空調、コーエイ設計室、新菱冷熱工業、ダイダン、豊建築設計事務所、東芝キャリア、佐藤総合計画、ダイワ空調設備（以上23社、順不同）

第10回記念事業：見学会プログラム

《受付》(一社)建築設備技術者協会中部支部設備女子会運営委員 鈴木法子【日比谷総合設備(株)】

《司会》(一社)建築設備技術者協会中部支部設備女子会運営委員 大山智子【大成建設(株)】

《写真》(一社)建築設備技術者協会中部支部設備女子会運営委員代理 船木里菜【(株)大林組】

1. 開会 挨拶 (一社)建築設備技術者協会中部支部支部長 黒田慎二【(株)黒田設備設計】
2. 主催者挨拶 (一社)建築設備技術者協会中部支部設備女子会運営委員 藤原永知子【藤原工業(株)】
3. 施設概要講演 講師：佐藤孝広様 【(株)日建設計 エンジニアリング部門 設備設計グループ アソシエイト】
4. 施設見学 見学引率：倉橋巧様、西村勇樹様 【大同大学 総務部管財室】
5. 質疑応答
6. 建築設備士資格について説明、(一社)建築設備技術者協会の活動紹介
《説明》(一社)建築設備技術者協会中部支部設備女子会運営委員 岡部裕之【大成建設(株)】
《事業バックアップ》(一社)建築設備技術者協会中部支部設備女子会運営委員 木村員久【(株)大林組】
7. 閉会 挨拶 (一社)建築設備技術者協会中部支部理事 末松辰朗 【高砂熱学工業(株)】

【交流会報告】

日時： 2024 年 5 月 24 日(金) 17:30~19:30

会場： サヴァサヴァ 〔名古屋市熱田区金山町 1-2-8〕

主催： 中部支部設備女子会運営委員会

協力： (一社)建築設備技術者協会中部支部

会費： 4,400 円(税込)

参加者数： 23 名

交流会： プログラム

司会： 中部支部設備女子会運営委員 鈴木法子 【日比谷総合設備(株)】

1. 開会あいさつ 中部支部設備女子会運営委員 大山智子【大成建設(株)】

2. 乾杯 (一社)建築設備技術者協会中部支部理事 水野孝政【丸水設備(株)】

3. 歓談

ご来賓： 佐藤孝広様 【(株)日建設計 エンジニアリング部門 設備設計グループ アソシエイト】

倉橋巧様【大同大学 総務部管財室】

4. 閉会あいさつ 中部支部設備女子会運営委員 藤原永知子 【藤原工業(株)】

【見学会・交流会開催概要】

2016 年中部支部設備女子会発足以来、継続して事業開催をしてきた。第 10 回記念事業として、大同大学 X 棟見学会を実施した。本年 4 月に東海地区初の「建築学部」が大同大学に開設された。これからの建設業界を担ってくれる若者が学び、集い、考え、活気あふれる教育施設の見学会は、未来につながる記念事業になったと嬉しく思う。X 棟(クロス棟)は、建築を学び、建築の仕事を目指す学生が「実物」「本物」に触れることができ、自由に主体的に学ぶ意欲につながる工夫がされていた。構造や作動が見えるスケルトンのエレベーター、ガラス張りの空調機械室の展示、天井を貼らずに冷媒配管やドレン管、ダクト配管、電線が見える作りになっていた。学園祭前日の見学会であったので、学生が大勢いる中で、どのように施設が使われているかがよくわかった。どの学生も楽しそうであり、たくさんの共有スペースでテーブルや椅子で、学び合ったり談笑したり、一人集中しレポートを書いたりしている姿が見られた。「こんな大学だったら、学生が来なくなるよね!」という参加者の言葉通りであった。当日は、中部地方以外に東京・神奈川・滋賀等、遠くからの参加者もいた。第 1 回~10 回まで、これまでの事業参加者は延べ 186 社、367 人になった。今回も定員を超える申し込みがあったが、見学先の下承が得られ、なんとか全員に参加してもらうことができた。教室は参加者で満席であり、隣の教室から机と椅子を運んで席を増やしていただいた。交流会では、講師の佐藤様、管財室の倉橋様にも来賓としてご出席いただき、更に詳しく設備概要について話を伺うことができた。異なる企業で、様々な職種ではあるが、設備に関わる女性達が男性とともに気楽に話ができ、建築設備士への学習情報を交換している。発足してから 8 年間、建築設備技術者協会中部支部の『女性の問題を女性だけのものにしない』という、心ささやかにして寛大な配慮と大きなバックアップが継続してあったことを深く感謝している。





【第10回記念事業 主催者挨拶 中部支部設備女子会代表 藤原（井内）永知子 抜粋】

建設業界全体の高齢化が進み、若者の入職が減り続け、現在は若年層の取り込みに各企業・各団体が知恵を絞り、定着を図ろうとさまざまな努力をしています。私は、本来、建設業はもっと魅力的な分野であるはずだと思っています。『建設的な議論・建設的な意見』という時の『建設』という言葉の意味を調べてみますと、「できない言い訳ばかり言うのではなく、目的を達成するためにはどうするか、建物を造るように一つひとつ考えていく」「その事の良さを積極的に認めた上でさらに推し進めようとするさま。現状をより良くしていこうと、積極的な態度でのぞむさま。」「建物の完成を目指して計画や役割などを考えていき、大勢の力を合わせて進める。次につながる仕事ができるように考えること。」このような意味があります。これが、まさに『建設』です。たてものをつくるということは、この『建設』という本来のことばの持つ意味を具現化することです。もう一度言いますが、私は本来、建設業はもっと魅力的な分野で、女性・男性に関わらず、若者が憧れる職業であってよいはずだと思っています。その中で、先月の4月に、東海地区初の「建築学部」がこの大同大学に開設されました。中部支部設備女子会の記念すべき第10回事業にふさわしい未来につながる見学会になったのではないかとうれしく思っています。

『設備女子会』という2012年に関東本部で付けられたネーミングはとてもシンプルです。愛知・岐阜・三重・静岡を範囲とする中部支部で、女子という名がつけられた会を運営する方法や役割、存在意義等を男性も含めた運営委員会で折にふれ話し合い、さまざまな意見を集約し、巡り巡って「中部支部設備女子会」という至極わかりやすい名称のままでよいという結論に達し活動してきました。そして、私は、活動していくうちにこの「女子会」というシンプルな名前が気に入るようになりました。しかし、「女子会」という名を中部支部で正式に使用していることを、いろいろな考えの方に対し、まずは、あらゆる誤解が無きように〔ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの概念やLGBTQ+の理解はしているが、敢えて女子会という名前を使っています〕とみなさんにお伝えしたいのですが、発言の一部を切り取られた有名人や政治家のちょっとした失言や表現の不適切さをおもしろおかしくマスコミが言葉狩りをするような報道があると、女子会代表の私は悩みが再燃し、あちこちからがんじがらめにされているような感覚にすら陥ってしまいます。

中部支部設備女子会は、男性が産んだ女子会です。そして、設立からずっと一貫し、全国で唯一、運営委員に男性もいる女子会として活動し、8年間で10回の事業の開催ができました。関東本部・各支部にある全国の設備女子会の中でも、中部支部の取組みはファーストペンギンであると自負しています。女性に選ばれない職業は廃れると言われていますが、同じく男性に選ばれない設備女子会は廃れると考えています。つまり多様性がない集団はいつかどこかで先細りになってしまうということです。男性・女性どちらが産んでも、協力して協働して育てるには変わりがないのではないかと、育児経験と会を維持運営するという経験で、よく似ているのではないかと感じています。

男女共同参画やダイバーシティ実現というとても難しい問題だと捉えられがちですが、建設業に携わり、本来の建設的という言葉を使っている私たちには、そうでもなくて、言葉通り、その事の良さを積極的に認めた上で、さらに推し進めようと、現状をより良くしていこうと、積極的な態度で臨み、完成を目指して計画や役割などを考えていき、大勢の力を合わせて進め、次につながる仕事ができるように考える。意見の違う人たちと折り合いをつけながら、物事を進めていくということは、建設業もダイバーシティ実現も同じだと思っています。これまで、男性が主体でやってきた建築設備士を中心とした職能団体である建築設備技術者協会の活動の歴史に敬意をはらい、女子会事業であっても協会の品格を保つ事業開催をする責任と覚悟の上で、中部支部設備女子会は活動を続けてきました。

建築設備に関わる企業に勤務し、それぞれいろんな職種で仕事をする業界人が、しっかり学び、楽しく集い、“女子会という名称の下で”ふんわりと横につながることで、複眼的な視点を増やしたり、多角的な角度から考えたりして、それぞれの仕事に役立てて欲しいと思っています。中部支部設備女子会の活動と大同大学建築学部の開設が、中部地方発信のバタフライエフェクトとして、未来の建設業界の色合いを増やし、業界全体を変えられるのではないかと楽しみにしています。 <以上、当日あいさつ抜粋>

建通新聞 中部

2024年(令和6年)5月28日火曜日



館内を見学する参加者

建築設備技術者協会中部支部設備女子会は24日、大同大学X棟(クロス棟)見学会を開いた。鉄骨造4階建ての同校舎は、建築・設備の仕組みや、各種材料がみえる「教材となる校舎」で、女性31人、男性5人が屋上の空調設備・受変電設備をはじめ、管内の設備を見て回った。設備女子会は発足から8年、今回が第10回記念事業で、これまでに延べ367人が参加。同協会中部支部の「女性の問題を女性だけのものにしない」バックアップの下、活動を展開している。

設備女子会

「教材となる校舎」を見学

中部

名古屋支社

大同大クロス棟を見学

JABMEE
中部設備女子会 知識と懇親深める

建築設備技術者協会（JABMEE）中部支部設備女子会は24日、第10回記念事業「大同大学X棟（クロス棟）見学会」を名古屋市南区の大同大学構内で開催した。写真。中部地区以外にも36人が参加。設備に関する知識と懇親を深めた。冒頭のあいさつでJAB

MEE中部支部の黒田慎二支部長は、学生を対象としたコンペを実施していることを紹介し「年々、参加者が増えている。今年も8月まで募集しており、学生の方々に伝えてほしい」と要請。運営委員の藤原永知子さん（藤原工業）は「建設業は男女にかかわらず、憧



れを持てる職業。大同大学に建築学部ができたことに大いに期待している。X棟は生きた教材であり、未来につながる見学会にした」と述べた。

見学会では、日建設計エンジニアリング部門設備設計グループアソシエイトの佐藤孝広氏が施設概要を説明。ガラス張りの空調機室や、さまざまな種類の木材や金属に触れることができ、サンプルーバー、一部の天井は貼らずに設備が見

えるようにするなど、建築や設備の仕組みや各種材料が見える「教材となる校舎」であることを説明した。その後、参加者は2班に分かれ施設内を見学した。

X棟の規模はS造4階建て塔屋1階延べ1万5391平方メートル。設計・監理は日建設計、施工は大林組が担当した。工期は2019年4月～20年11月。

中部経済新聞

2024年(令和6年)

5月29日

水曜日

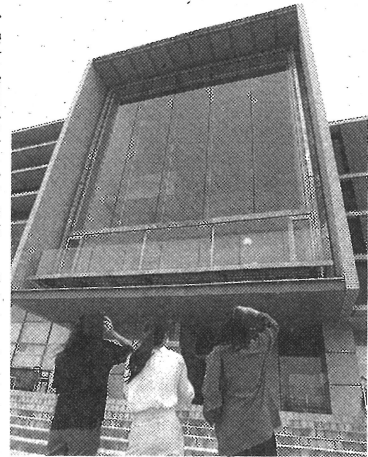
建築設計の工夫学ぶ

設備女子会が大同大で見学会

一般社団法人建築設備技術者協会中部支部(名古屋)

社や設備工事会社など23社・36人が参加した。

見学した大同大学のX(クロス)棟は、工学部建築学科の学生らが利用する校舎で、2021年4月に供用を開始。「建築を学ぶ教材となる校舎」として、

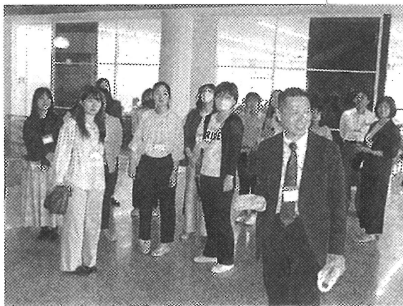


X(クロス)棟の外観を見学する参加者ら

コンクリートや鉄、木といった建材、天井を通る空調配管などがむき出しの状態で見えるようにしているのが特徴。夏の日差しを遮る深い庇(ひさし)や自然換気のための換気窓を設けるなど環境にも配慮している。同校舎の設計に携わった日建設計(本社東京都)の担当者と大学担当者が施設概要の紹介や見学を引率した。

参加者たちは、担当者からの説明に熱心に聞き入り、設計の工夫によって快適性と利便性の両立が図れることを肌で感じていた。

同協会は、建築設備士や設備設計1級建築士らで構成する。設備女子会は16年発足で、女性の資格保持者を増やすことを目的に研修会や親睦を深める活動を行っている。見学会は今回で10回目。見学会の累計参加者は延べ186社・367人に上る。



設計会社の担当者から説明を受けた

大同大X棟を見学

J A B M E E

中部設備女子会

建築設備技術者協会（J A



B M E E）中部支部（黒田慎二支部長）の設備女子会は24

日、名古屋市の大同大学X（クロス）棟で第10回見学会を開いた。写真。会員企業などから36人が参加した。

冒頭、藤原永知子運営委員は「建設業は本来、男女関わらず若者が憧れる職業であって良い。大同大学では4月、東海地区で初めて建築学部を開設した。これからの業界を担う若者が学び、考え、魅力ある建設業にしてくれると期

待している」と話した。

続いて、同校舎の設計を担当した日建設計の佐藤孝広エンジニアリング部門設備設計グループアソシエイトが施設の概要を説明した。校舎自体が建築を学ぶ教材となるように、空調機械室はガラス張りにして設備が見えるようにするなど、施設全体に施された工夫を紹介した。その後、参加者は校舎内を見学した。

